

1 かわにし有機農業推進協議会（山形県川西町）

協議会の構成員

やまがた有機農業の匠、山形県有機うまいもん研究会、(有)山形川西産直センター、(有)ファーマーズクラブ赤とんぼ、(農)山形おきたま産直センター、たまちゃんクラブ、ときめきセミナー、川西町認定女性農業者、かわにし森のマルシェ、県立置賜農業高等学校、川西町、町内の有機農業者（個人会員）

生産概要（令和2年度末）

- 有機農業（うち有機JAS）取組面積：23.7ha（19.5ha）
- 有機農業取組者数：15名
- 栽培品目：水稻、豆類、野菜、雑穀等
- 構成員の主な取引先：町内産直施設、契約販売、ネット直販等

成果（令和元年度→令和5年度見込）

- ・有機農業者数の増加：10名（令和元年実績）→12名（令和5年度見込）
- ・有機JAS認証取得者数の増加：7名（令和元年実績）→9名（令和5年度見込）

取組のポイント（令和2年度）

■土づくりや雑草管理に関する技術講習会の開催

・新規参入者増加のため、有機農業に関心のある農業者（町内外）等を対象に、有機栽培に関する技術講習会を計7回（水稻3回、野菜4回）開催した。有機栽培における適切な肥培管理や雑草管理、品質や食味等への影響について理解を深めることで、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

■有機JAS認証取得に関する講習会の開催

・有機農業JAS認証取得者数増加のため、県内の熟練有機農業者を講師に招き、有機JAS認証取得のメリットや注意点等を把握することで、有機農業の促進と理解醸成につなげた。

■産直施設やスーパー等を活用した販路開拓

・有機農産物の付加価値を向上させるため、かわにし森のマルシェ（町内産直施設）と連携し、有機農業者コーナーを常設することで、有機農業者の「顔」が見える販売戦略を構築できた。また、同施設や県内スーパーのイベント等に参加し、有機農産物の消費者の有機農産物に対する理解促進を図った。



イベント参加時の様子



有機農業者コーナーに設置したパネル



今後の農業を担う子供たちに食育を行うため、現在、町内の学校に有機米を提供する準備を進めています。有機農業に興味のある方は、ぜひ事務局までご連絡ください！

問い合わせ先
かわにし有機農業推進協議会
事務局：0238-42-6641

〔東北農政局生産部生産技術環境課
022-221-6214〕

2 もがみオーガニックビレッジ協議会（山形県新庄市）

協議会の構成員

山形有機農業の匠、ネットワーク農縁等有機農業者 4 名、実需者 1 名、新庄市農林課 1 名

生産概要（令和 2 年度末）

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| ■取組面積 | ■有機農業者数：15名 |
| 有機農業取組面積：13.7ha | ■栽培品目：米、大豆、野菜等 |
| うち有機JAS取得面積：11.2ha | ■構成員の主な取引先：オイシックス・ラ・大地等 |

成果（令和 2 年度）

- ・有機JAS認証取得者数の増加： 1 名（令和元年度 1 人 ▷ 令和 2 年度 2 人）
- ・有機農業取組面積の拡大： 1.5ha（令和元年度 12.2ha ▷ 令和 2 年度 13.7ha）

取組のポイント（令和 2 年度）

■有機栽培講習会の実施

- ・有機栽培志向者等、新たに有機栽培を始めたい農業者を主たる対象として栽培技術を学ぶ機会を創出。講習内容は、有機農業者側から見ても深い学びがあり、慣行農業者にとっても有機への転換に関心を持たせる有意義な内容であった。

■米糖ペレット散布による抑草効果の実証

- ・研修圃場を 3 件設置し、米糖の使用を変え、雑草の発生状況や収穫量の状況を検証。ペレットのみに頼るのは難しいとの結論に至った。抑草方法の複合化のほか、水深の影響も考えられることから、今後そのデータ収集等が必要。

■やまがたビエンナーレ主催『オーガニックマーケット』への出展

- ・オーガニックにこだわる「食品館256」が会場であり、食材への意識が高い客層であった。対面販売を通して、日常にオーガニックを取り入れている人は少ないと感じたが、顧客のニーズをつかむ良い機会となった。

■もがみオーガニックフォーラム2020の開催

- ・映画上映、講演会、意見交換会を行うイベントを実施。有機農業を始めた家族の数年間を描いた映画で、有機農業に取り組み楽しさややり甲斐を再認識することができた。また、講演も即実践に繋がられるような内容で、生産力を向上するための課題を確認することができた。



私たちは、人と自然が調和した持続可能なオーガニックビレッジを目指しています。豊かな自然・豊かな資源を次世代に伝え、そこに暮らす人々が、健康で元気で生きる場所。ローカルだけど、ユニークで・フェアで・ファンがいる。「ないもの」ではなく「あるもの」を活かした未来をつくります！！

問い合わせ先
もがみオーガニックビレッジ協議会
info@nosya.net

東北農政局生産部生産技術環境課
022-221-6214

3 南陽市有機農業推進協議会（山形県南陽市）

協議会の構成員

南陽市農林課、(農)山形おきたま産直センター、山形おきたま農業協同組合南陽地区稲作部会、(株)おきたま興農舎、(有)ファーマーズ・クラブ赤とんぼ、山形県置賜総合支庁農業振興課、山形県置賜総合支庁農業技術普及課、山形おきたま農業協同組合南陽支店

生産概要（令和2年度末）

- 取組面積
有機農業取組面積：20.2ha
うち有機JAS取得面積：18.3ha
- 栽培品目：水稻、にんじん、ねぎ、さといも、しょうが
- 有機農産物の生産量：120トン
- 構成員の主な取引先：生協、米穀店、百貨店、飲食店、直売市等
- 有機農業者数：17名

成果（令和2年度）

- ・有機農業者数の増加：15名（令和元年度）→17名（令和2年度）
- ・有機農業取組面積の拡大：18.6ha（令和元年度）→20.2ha（令和2年度）

取組のポイント（令和2年度）

■除草や病虫害防除に関する技術講習会の開催

- ・有機農業の里としての基盤を確立し、新規参入者の増加を図るため、水稻の技術講習会を4回、野菜の技術講習会を1回開催。水田除草機による除草をはじめ様々な除草技術、病虫害防除対策等を学習したことにより、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の栽培技術力の向上につなげた。

■有機米を使った加工品の開発

- ・地元酒店、酒蔵及び企画会社と協力して有機米を使った日本酒を試作開発。発表会の開催等を行い、商品化した日本酒を地元酒店で販売することとなった。

■学校給食での有機米利用拡大に向けた出前講座の開催

- ・市内全小中学校で有機米米飯給食を2週間実施し、農業者による小中学生等に向けた有機農業に関する出前講座を開催。小中学生等に向けた資料を作成・配布したことにより、有機農業への更なる理解の醸成につなげた。



▲水田除草機による除草効果の実証



▲有機米を使った日本酒の発表会



長年積み重ねたベテランの知識！
新たな技術に取り組む若手のエネルギー！

農業体験や田んぼの環境保全効果調査を通じた消費者交流活動、学校給食への有機栽培米の供給などに積極的に取り組んでいます。

問い合わせ先
南陽市有機農業推進協議会
0238-40-8310

東北農政局生産部生産技術環境課
022-221-6214

4 千葉県有機農業推進協議会（千葉県全域）

協議会の構成員

農事組合法人さんぶ野菜ネットワーク、株式会社シェアガーデン、株式会社オーガニックパートナーズ、株式会社自然農法販売協同機構、オーガニック・エコ農と食のネットワーク、株式会社福島屋、イーサポートリンク株式会社、一般社団法人フードトラストプロジェクト木更津市、山武市

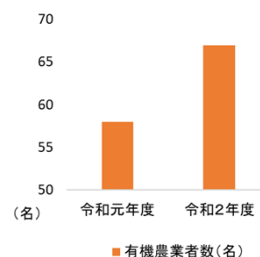
生産概要（令和2年度末）

- 取組面積
有機農業取組面積：92.0ha
うち有機JAS取得面積：44.0ha
- 有機農業者数：67名
- 栽培品目：人参、米、里いも、小松菜等
- 有機農産物の出荷量：約950t
- 構成員の主な取引先：30箇所
（生協、スーパー、農協直売所 等）

成果（令和2年度）

木更津市において有機米の取り組みが拡大され有機農業者が増加した。

- ・有機農業者数の増加：58名 → 67名
- ・有機農業の理解が深まり、有機JAS取得農業者が増加した。
- ・有機JAS取得農業者数の増加：34名 → 39名



取組のポイント（取組期間：令和2年度～）

■有機農業の新規参入者の増加に向けた取組

- ・ コロナ禍のためオンラインによる研修会に取り組んだ。内容としては新規就農者及び転換者等を対象に、**栽培技術指導及び農業経営、有機JAS認証に関する研修会**を実施した。
- ・ 昨年に引き続き、南房総市で有機農業への新規取組者を掘り起こすために研修会を開催。

■有機農産物の安定した供給体制の構築に向けた取組

- ・ オーガニックライフスタイルE X P Oへ出展し、有機農業者のアピールを行った。
有機農業者とバイヤーのマッチングを行った。
展示会やマッチングに参加することで、有機農業者同士の横のつながりもでき、情報交換できた。
- ・ 出荷効率化を目的に先進事例の視察を行う要諦だったが、コロナ禍のためオンラインでの講演会を行った。
- ・ 構成員会議を3回開催し、コロナ禍での取組方法を協議するとともに、進捗状況の共有や情報交換を行った。



一言アピール！

有機農業の取組をたくさん紹介しています。今年も有機栽培に取り組む仲間を増やしていきます。

問い合わせ先：
千葉県有機農業推進協議会
03-6821-4219

〔 関東農政局生産部生産技術環境課 〕
048-740-0446

5 さがみサステイナブルコミュニティ (神奈川県相模原市／愛川町)

協議会の構成員

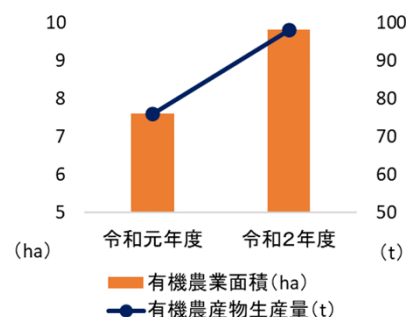
生産者12名、海老名畜産（有）、合同会社 旬彩坊、やさいバス（株）
相模原市、愛川町、県央愛川農業協同組合

生産概要（令和2年度末）

- 取組面積
有機農業の取組面積：9.8ha
うち有機JAS取得面積：5.3ha
- 有機農業者数：7名
- 栽培品目：人参、里芋、ズッキーニ、ルッコラ等
- 有機農産物の生産量：98.0t
- 構成員の主な取引先：
生協、スーパー、学校給食、食品宅配、産直EC等

成果（令和2年度）

- ・有機農業面積の拡大：7.6ha → 9.8ha
- ・有機JAS取得面積の拡大：4.3ha → 5.3ha
- ・有機農産物生産量の拡大：76.0t → 98.0t

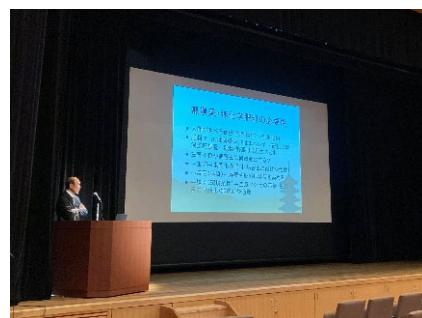


取組のポイント（令和2年度）

相模原市、愛川町ともに農業従事者の高齢化が進むなか、新たな担い手確保の手段として有機農業を広く提案していくため、有機への転換を促す土づくり技術実証、転換実証等をおこなった。

●栽培技術力・経営力向上のための取組

- ・伝統農法文化研究所 木嶋利男氏の講演による土地、気候、風土を生かした地域資源を活用する伝統農法を学び、作物の植物生理を根本から考える時間をもった。また、構成員の和泉氏は7haの土地を耕作する慣行農家で、その効率化と経営手法を小規模が多い有機農業に活かすべく現地視察した。
- ・三箇所の研修圃場を設置し、緑肥主体の土づくりとそれぞれの栽培方法を共有。またHappy village farm 石綿 薫氏を講師に迎え、研修圃場の土づくりの現状把握と、土づくり全体を学ぶ講習会を実施した。
- ・川田研究所 川田肇氏の指導で技術実証を実施。緑肥等を用いた土づくりをおこない土壌分析し、全炭素全窒素を量り、前後の変化を検証した。



さがみサステイナブルコミュニティは生産⇒輸送⇒販売を一貫して行い、生産力の向上と担い手確保、地域に根差す農業の存在をアピールしていきます。

問い合わせ先
さがみサステイナブルコミュニティ 事務局 原田
taizou880607@gmail.com

関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

6 小田原有機の里づくり協議会（神奈川県小田原市）

協議会の構成員

小田原市、小田原有機農法研究会、農事組合法人小田原産直組合、NPO法人あしがら農の会、一般社団法人MOA自然農法文化事業団、NPO法人小田原食とみどり、小田原家庭菜園研究会

生産概要（令和2年度末）

■取組面積

有機農業取組面積：112ha

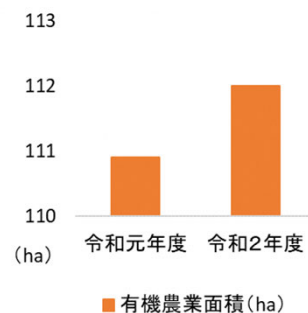
うち有機JAS取得面積：12ha

■栽培品目：キウイフルーツ、水稻、野菜等

■構成員の主な取引先：生協、スーパー、食品宅配等

成果（令和2年度）

- ・有機農業取組面積の増加：110.9ha → 112ha
- ・研修圃場、実証圃場を設置し、様々な作物を栽培することで、構成員の栽培技術力の向上を図った。



取組のポイント（取組期間：令和2年度～）

■有機農業者の育成及び技術の向上に向けた取組

- ・研修圃場を設置して、新規就農者たちが水稻、キウイフルーツなど様々な作物を栽培し、生育状況等の違いについて意見交換しながら有機資材、緑肥などを使った栽培方法を学ぶとともに、有機の育苗技術については、自然農法国際研究開発センターによる指導を受けながら、有機農業者を育成。
- ・実証圃場を活用した酒米を有機農法により栽培し、転換初期の課題の抽出、解決策を学び、慣行農法との生育状況や圃場管理の比較を行った。
- ・BLOF理論という3つの分野に分けて考察し、科学的・論理的に営農していく有機栽培技術の講習会を実施し、新規就農者や新規参入者の技術向上を図った。



一言アピール！

大都市圏から近く、自然環境にも恵まれた中で取り組んでいます！

問い合わせ先：
小田原市役所経済部農政課
0465-33-1494

関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

7 とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会（富山県）

協議会の構成員

富山県農業協同組合中央会、全農とやま、富山県農林水産部、富山市、氷見市、滑川市、南砺市、舟橋村、入善町、朝日町、（公社）富山県農林水産公社、富山中央青果株式会社、丸果株式会社、MOA自然農法富山県連合会、越中土徳の会、氷見有機の里づくり協議会、（株）和田農産、富山県有機農業研究会、（有）土遊野、ログログファーム、どろんこ農園

生産概要（令和2年度）

■取組面積

有機農業取組面積：219ha

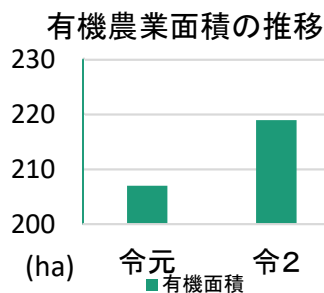
うち有機JAS取得面積：116ha

■有機農業者数：76名

■栽培品目：水稻、大豆、そば、ハトムギ
野菜（サトイモ、キャベツ他）等

成果（令和2年度）

・有機農業面積の拡大：207ha（令和元年）→219ha（令和2年）



取組のポイント（取組期間：令和2年）

県段階の「とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会」と、地域段階の有機農業団体（5団体）が連携しながら、有機農産物の生産拡大に向けた取組を実施

■BLOF理論による有機栽培技術研修会を開催

- ・有機生産ほ場の生産力向上を目指し、BLOF理論に基づいた栽培研修会を開催した。土壌分析結果から施肥設計を行い、植物生理に基づいた農業理論への理解を深め、新規就農者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。



栽培研修会（BLOF理論）

■消費者との交流促進の取組

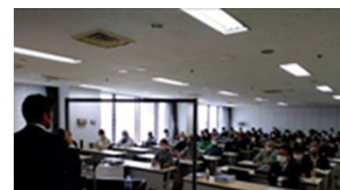
- ・消費者に有機農業のことを知ってもらい、有機農産物等の価値を理解してもらうため、県民向けの食イベントにブースを設置し、生産者自らが有機農産物の生産活動をPR。



消費者交流（食のイベント）

■学校給食への有機農産物の導入するための取組

- ・学校給食への有機農産物の導入に向けて先進地導入事例を学ぶための研修会（講師：次代の農と食をつくる会、千葉県いすみ市）を実施。
- ・令和3年度に2市村で有機学校給食の取組みの拡大を予定。



学校給食研修会



協議会活動を通じて、
富山県の有機農業・エコ農業を推進
します。

問い合わせ先：
富山県農林水産部農業技術課エコ農業推進係
076-444-8292

北陸農政局生産部生産技術環境課
076-232-4893

8 若狭小浜オーガニック推進協議会（福井県小浜市）

協議会の構成員

(株)永耕農産 1 名、認定新規就農者 1 名、認定農業者 1 名、若狭有機の会 2 名、福井県民生活協同組合 1 名、JA福井県若狭基幹支店 1 名、小浜市地域おこし協力隊 1 名、(株)ふらむはあと 1 名、ラヴェリタ 1 名、小浜中央青果(株) 1 名、小浜市農業再生協議会 1 名、福井県 1 名、小浜市 3 名

生産概要（令和 2 年度末）

○園芸

- 取組圃場：2 圃場（4a）
- 栽培品目：きゅうり、ブロッコリー
- 取組内容：・土壌分析に基づく施肥設計
・太陽熱養生処理による土壌改良

○水稻

- 取組圃場：3 圃場（120a）
- 取組内容：・土壌分析に基づく施肥設計
・稲わら投入等による秋処理
・有機物の分解状況等の調査

成果（令和 2 年度⇒令和 5 年度見込）

- | | | | |
|-----------------------|------|---|-------|
| ・有機農業への新規就農者および転換者の増加 | 1 名 | ⇒ | 5 名 |
| ・有機農産物の出荷量（水稻） | 8.3t | ⇒ | 13.7t |

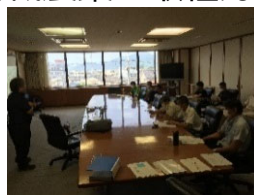
取組のポイント（令和 2 年度）

BLOF理論に基づいた土づくり講習会等

○講師を招いての実証や講習会

以前から嶺南地域は、土壌の質や日照量等が原因で農業に不利であるといわれてきた。この課題を解決するため、科学的根拠やデータに基づく有機農業に取り組んだ。

- ・新規就農者および転換者への技術・圃場実証… 4 回
- ・労働時間や生産コスト等の分析講習会 … 1 回



○協議会委員のみの研修会など

本協議会を構築し、有機農業の技術の向上と地域への普及、食のまちづくりの理念に基づく安全・安心な食の提供に取り組むため、下記の研修会を実施した。

- ・販売戦略等に係る検討会 … 1 回
- ・経営力向上に係る研修会 … 1 回
- ・その他（需要調査、商談など） … 6 回
- ・成果報告会



有機農業を普及させ、新たなブランド商品となるよう頑張ります。

問い合わせ先
若狭小浜オーガニック推進協議会
0770-64-6023

北陸農政局生産部生産技術環境課
076-232-4893

9 知多の恵み（愛知県知多郡美浜町、武豊町、南知多町）

協議会の構成員

有機農業者（13名）、美浜町役場、生協連合会アイチョイス

生産概要（令和2年度末）

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ■取組面積
有機農業取組面積：7.2ha | ■栽培品目：人参、玉ねぎ、大根、里芋等 |
| ■有機農業者数：13名 | ■有機農産物の生産量：19トン |
| | ■構成員の主な取引先：生協連合会アイチョイス |

成果（令和2年度）

有機農業取組面積の拡大：6.3ha（令和元年度）→7.2ha（令和2年度）
 有機農産物の販売額：490万円（令和元年度）→770万円（令和2年度）

取組のポイント（令和2年度）

■BLOF理論に基づいた栽培研修会の開催

- ・地域課題である田畑転換の実現を目指し、BLOF理論に基づいた研修を通年（年3回）開催し、新規就農者が2名定着、増加。
 土壌分析結果から施肥設計を行い、植物生理に基づいた農業理論への理解を深め、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

■地域資材の有効活用

- ・知多半島の畜産業から出る牛糞を活用し、BLOF理論に基づいた自家製牛糞堆肥の生産に着手。田畑転換の必要資材として開発を進めた。

■緑肥資材の活用

- ・新たな取組としてソルゴーを始めとした緑肥を栽培し、圃場へそのまま粉砕・すき込みを行うことで、資材を自己完結できる手法の確立に取り組んだ。



BLOF理論に基づいた栽培研修会の様子



地域資材を活用したの堆肥生産の様子



知多半島を有機農業の一大生産地にするべく、日々農業に取り組んでいます！！
 共に取り組む仲間を募集していますので
 ご興味のある方はご連絡下さい。

問い合わせ先
 知多の恵みG事務局 杉浦
 0569-82-0401

東海農政局生産部生産技術環境課
 052-746-1313

10 神戸有機農業者CSA推進協議会（兵庫県神戸市）

協議会の構成員

株式会社ナチュラリズム、谷下農園、なちゅらすふぁーむ、fresco fresco、ながた農園、桶谷農園、あぐりしあ、新規農業者2名、兵庫県、神戸市

生産概要（2021年4月）

- 取組面積
 - 有機農業取組面積：5.10ha
 - うち有機JAS取得面積：3.19ha
- 有機農業者数：8名
- CSA会員数個人45名、企業2社
- CSA販売実績：3,120,000円
- 新しい品目：ビール麦 800kg

成果（2019年→2022年）

- ・ 有機農業の新規参入者の増加：1名（2019年）→4名（2022年）※見込み
- ・ 有機農業面積の拡大：4.8ha（2019年）→6.8ha（2022年）※見込み

取組のポイント（取組期間：2019年～）

■ 有機農業への参入者の増加に向けた取組

- ・ 神戸市内の耕作放棄地の解消と農業者減少を有機農業で解決するビジョンを掲げ、2019年、2020年の2年間技術向上セミナーの開催や大麦の栽培を新たに実験し有機農業の経営基盤の向上を図った。

■ 流通・販売の拡大に向けた取組

- ・ 実需者を交え、有機農業の販売方法（CSA）の拡大を目指すと共に企業の福利厚生に有機農業を活用できないかとの提案を展示会で行いニーズ調査をしました。
CSAの事例セミナーの開催や、新たに企業内でのCSAの導入を検討されている企業と導入実験を行い販売数の確保に至った。

一言アピール！

みどりの食料戦略に今後CSAを広めていくことが大切だと思います。

問い合わせ先
神戸有機農業者CSA推進協議会
090-8934-6611

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722



11 神戸オーガニック・エコ農業推進協議会（兵庫県神戸市）

協議会の構成員

農業者19名、朝来市役所職員、生活協同組合コープ自然派兵庫、株式会社コープ有機、一般社団法人オーガニック認証センター

生産概要（2021年5月）

■取組面積

有機農業取組面積：24ha
うち有機JAS取得面積：9ha

■有機農業者数：7名

■栽培品目：米、大豆、人参、ズッキーニ、カボチャ、玉ねぎ、かぶ、ほうれん草、小松菜、ピーマン、水菜、トマト、春菊、レタス等

■構成員の主な取引先：3箇所
（生協、直売所、レストラン）

成果（2020年→2021年）

- ・有機農業者数の増加：7名（2020年）→7名（2021年）
- ・有機農業面積の拡大：41ha（2020年）→41ha（2021年）

取組のポイント（取組期間：2018年～）

■有機農業への参入者の増加に向けた取組

・新規参入者の課題であった有機農業の栽培技術について、BLOF理論の講習会を年に9回実施（※）することで農業者の技術向上と情報交流の場をつくっている。講習会において生産者からの様々な実践的課題に対して講師から丁寧な説明を受け新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

※ 小祝政明氏の提唱している、科学的・理論的に有機農業を進める再現可能な農法のBLOF理論に関する栽培技術講習会を年4回開催。

- ① 太陽熱養生処理を用いた団粒形成と各地の実践事例の紹介
- ② 作物生理に基づいたアミノ酸の供給
- ③ 微生物と水溶性炭水化物の供給
- ④ 土壌分析に基づいた施肥設計

一言アピール！

生産者、消費者がつながり、地域で連携し、生きものにやさしい農業実践と地域の環境保全に努めていきます。

問い合わせ先
神戸オーガニック・エコ農業推進協議会
（生活協同組合コープ自然派兵庫内）
事務局 078-998-1671

〔近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722〕